グローバル人材の育成を図るための探究型学習の開発・実践

～高知南チーム～

高知県教育センター 学校支援部 研究開発・グローバル教育担当

1　研究目的

平成 27 年度、高知県教育委員会は高知県立高知南中学校・高等学校（以下「高知南中高」という。）をグローバル教育推進校として、本県の今後の地域振興、産業振興を担うグローバル人材を育成することとした。その中で、同校を高知県教育センター（以下「教育センター」という。）の研究協力校と指定し、グローバル教育担当指導主事を常駐させ、探究型学習と英語教育について研究を支援することとなった。本稿はその中の探究型学習について教材づくり、授業づくりや、研究の組織的推進について述べる。

同校では、「探究型学習」を「生徒が自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に取り組む学習」と定義し、特に「思考力・判断力・表現力」を育成することを目指した。

また、教員研修は「授業方法の改善」の視点で取り組むこととし、その具体的な手法として、「協調学習（知識構成型ジグソー法)」を用いることとした。

本研究では、「協調学習（知識構成型ジグソー法)」の教材づくり、授業づくりを、日常的な教育活動の中で実践し、その内容や成果について協議・検討を重ね、それらを「事例集」として集約することで、次年度への取組に生かしていくことを目的とし、取組を行った。

2　研究体制

本研究は、グローバル教育における探究型学習の推進について、高知南中高に常駐する教育センターの指導主事と、学校の研究推進体制が一体となって、「協調学習（知識構成型ジグソー法)」の教材研究・授業実践を中心に進めていくこととした。

「自立した学習者を育てるための言語活動の充実を図る指導方法の研究」をテーマに、全教職員が授業改善に取り組み、全員が年間１回以上の授業公開を行った。そして、「探究型学習」については、本年度より新たに「探究型学習推進チーム」を発足させ、「協調学習（知識構成型ジグソー法)」に関わる教材研究、指導案検討、授業実践、また評価のあり方等について協議・検討した。さらに、本年度は、「国語科」、「地歴公民・社会科」を「協調学習（知識構成型ジグソー法)」の研究指定教科とし、両教科の担当教員全員が１回以上の「協調学習（知識構成型ジグソー法)」の授業実践を行うこととした。

また、これらの学校の取組を日常的に支援する学校常駐の指導主事に加え、もう１名、教育センターの指導主事が担当となり、全体的な支援を行うようにした。（表１）

高知県教育センターの体制		
グローバル教育の担当　８名		
学校支援部長	１名	
チーフ	１名	
外国語担当	*１名	セ３名
探究担当	*１名	セ１名

＊高知南中・高等学校に常駐している。

高知南中・高等学校の体制									
	探究型学習推進チーム　13 名							教科会	
	チーム長：高等学校主幹教諭							国語	地歴公民、社会
高等学校	初任者研修教科指導員		国語	－	－	－	英語	３名	６名
	年次研修	初任者	国語	－	－	－	英語		
		２年経験者	－	－	数学	理科	－		
		３年経験者	－	－	－	理科	－		
	教科主任		国語	地歴公民	－	－	－		
中学校	初任者研修教科指導員：指導教諭		国語	－	－	－	－	２名	２名
	年次研修	初任者	国語	－	－	－	－		
		２年経験者	国語	－	－	－	－		

※教科会の人数には、探究型学習推進チーム員は入れていない。

表１　研究推進体制

３　研究の経緯

⑴　「探究型学習推進チーム会」について

「探究型学習推進チーム会」は、研修会も含め、年間６回開催した（表２）。研究の初年度ということもあり、まずは「協調学習（知識構成型ジグソー法）」とはどのような指導方法であるか、授業の流れや、教材づくりのポイント等について研修し、授業実践等を共有しながら進めた。

また、６月には埼玉県立総合教育センター　飯窪真也指導主事を招聘し、実際的な教材を用いての教材づくり、授業づくりの研修会を行った。

表２　探究型学習推進チーム会の取組

４月	研究内容・方法・年間計画について
６月	教材づくり・授業づくりのポイントについて
	外部講師を招聘しての授業づくり研修会
７月	研究授業についての研究協議
８月	研究授業に関わる評価方法の研修
１月	年間の研究について総括

⑵　「教科会」について

本年度の研究指定教科である「国語科」、「地歴公民・社会科」については、通常の校務の中に毎週１回設定されている「教科会」の中に、教材づくりや授業づくりについての研究協議の場を設けることとした。

特に「国語科」においては、授業実践について共有する時間を設定し、「協調学習（知識構成型ジグソー法）」だけではなく、校内研修の研究主題に関わり「アクティブ・ラーニング」の視点での情報交流も行った。

両教科とも、11 月に実施した「グローバル教育研究報告会」における「公開授業」で授業者の作成した学習指導案や教材資料等を検討し、教材づくり、授業づくりを組織的に行うことができた。

⑶　グローバル教育研究報告会における公開授業について

11 月５日（木）に開催された「平成 27 年度グローバル教育研究報告会」において、「探究型学習」については「中学校１年生　国語科」、「高等学校２年生　国語科」、「高等学校２年生　公民科」において「公開授業」を実施した。（表３）

表３　公開授業一覧

学年	授業内容	授業形態
高校２年	現代文Ｂ　評論「日本人の『顔』」	「協調学習（知識構成型ジグソー法）による授業」
高校２年	現代社会「ギリシア問題」	「協調学習（知識構成型ジグソー法）による授業」
中学校１年	国語「学校案内リーフレットを作る」	「タブレット端末を活用した授業」

高等学校国語科「現代文Ｂ」においては、教科書で学習した評論文の内容**「日本人の性質や考え方」**について、**「１　日本人の個性についての考え方」**や**「２　日本人と欧米人の考え方の違い」**、また**「３　日本人の世間や恥の考え方」**などを踏まえて、話し合い、考える学習を行った。

また、高等学校公民科「現代社会」では、**「ギリシア問題（ギリシアの経済危機）」**について、既習事項である**「一般的にデフォルトになると」**、**「１　通貨の価値はどうなるか」**、**「２　インフレーションになるとどうなるか」**、**「３　国債価格が下落するとどうなるか」**を踏まえ、話し合いながら解を考える学習を行った。

両授業とも、「協調学習（知識構成型ジグソー法）」の利点を生かした、生徒の主体的・協働的な学習を展開することができ、一般参加者からは「多くの生徒が積極的・意欲的に学習していた。全ての生徒に出番があることは、ジグソー法の良さだと思った。」（現代文Ｂ）、「生徒が主体的・協調的に学習を行うことができるレベルの高い授業であった。一人一人の生徒が自分の考えを持ち、とりわけジグソー活動で、自分の言葉で話していた。」（現代社会）などの感想も聞かれ、大変好評であった。

また、中学校国語科では「学校案内リーフレット」の内容や構成などについて、タブレット端

末の機能を駆使し、グループで話し合ったり、推敲したり、構成を決めたりしながら学習を進める授業を行った。「生徒が生き生きと学習をしていた。」等の感想が寄せられた。

これらの公開授業の内容を考えたり、学習指導案を検討したりする際には、教育センターの常駐指導主事や担当指導主事だけではなく教科に関わり他部署の指導主事も学校に赴き、学習指導案の検討会に出席するなど、学校の取組を支援した。

(4) 研究授業について

本年度、６月・７月には、常駐指導主事による研究授業を実施した。

７月１４日（水）・１５日（木）「国語総合」（高等学校１年生）の研究授業より

目標：小説に描かれている登場人物の様子や心情、情景の意味などを、話し合い学習を通じて読み深める。
内容：小説『羅生門』には、人間のどのような本質（真の姿）が描かれているか考える。

【学習課題】小説『羅生門』には、人間のどのような本質（真の姿）が描かれているか。

【エキスパートA】	【エキスパートB】	【エキスパートC】
文章中の表現※に注目して、「下人」とはどのような人物か話し合う。 ※引用は省略	「下人」と「老婆」が出会ったことの意味について、文章中の表現※を踏まえて話し合う。 ※引用は省略	小説の結末の一文を、作者が書き換えた理由について話し合う。

〔生徒の感想〕

- 以前は教科書の内容を理解するだけだったが、今回は内容理解に加え、より羅生門の内容、状況、下人の心情を深く考えることができた。
- 下人と老婆が互いに四苦八苦して生きていたことがわかりました。やり方や思うことはひどかったりするけど、人間の本質を探ることで考えが深まったと思いました。
- なぜ老婆と下人が出会ったとか考えたこともなかったので、考えてみたら、下人の本質や気持ちを改めて読みとれたと思いました。下人の気持や行動を読み取ることで人間の本質にもつながっていくのだと思いました。

研究授業のポイント

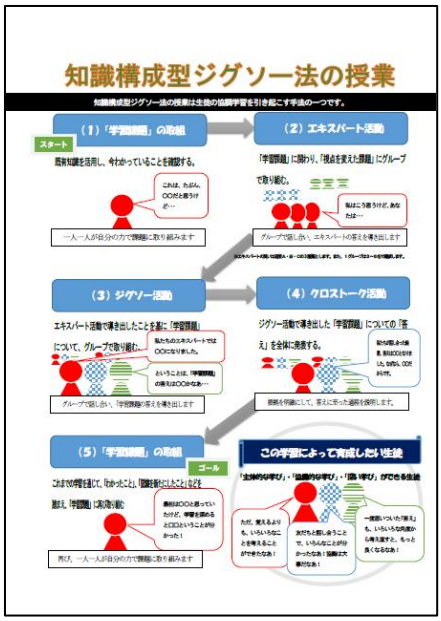
研究授業では、次のようなことを留意した。

学習課題（１回目）	これまで学んだことを振り返り、登場人物の行動や発言の意味、また根拠になったことがどのようなことだったかをよく考えさせる。**〔生徒の「内省」を重視〕**
エキスパート活動	【A】下人が、状況に流されながら自分の心情を変化させたり、他者に対しての態度を変えていることなどに着目する。その姿を通じて、下人の人物像を考えさせる。 【B】下人が、自分に欠けていたことを老婆の論理を聞くことによって補っている点に注目しながら、下人にとって老婆とはどのような存在であったのかを考えさせる。 【C】登場人物の心情と、情景描写の関連を考えながら、表現効果と、作者がどのような意図を持って書き換えたのかを考えさせる。
ジグソー活動	それぞれのエキスパートはどのような「問い」であったか、またそれに対してどのような話し合いが行われ、どのような意見にまとまったかをぞれぞれに発表させる。 その後、ジグソーの課題にグループとして取り組ませるが、その際、「登場人物の心情の変化とその根拠や情景の意味」を中心に話し合わせる。
クロストーク活動	他のグループと同じような話し合いがなされていたとしても、その内容を報告させる。単なる報告にならないように、「どうしてそのような話し合いになったのか」、「他にはどのような意見が出ていたか」などについても適宜発表させる。（教員が適切にそれらの内容を促す。）
学習課題（２回目）	登場人物の人物像や、情景の意味、作者の意図などについて認識を改めさせながら、小説を読み深めさせる。**〔生徒の「内省」を重視〕**

４　研究の成果と課題

(1)　「探究型学習事例集」について

表４

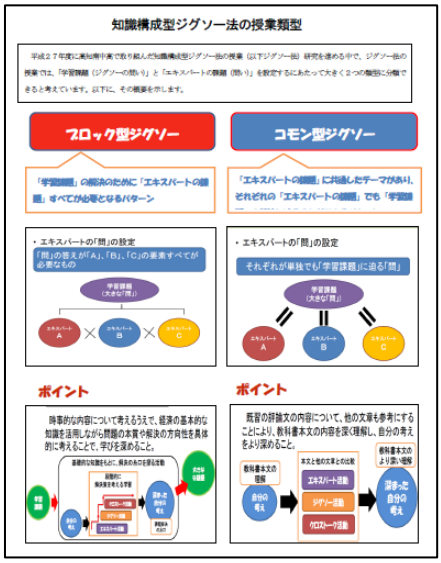


「協調学習（知識構成型ジグソー法）」は東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構（以下 CoREF）が提唱するアクティブ・ラーニング型授業方法の一つであるが、CoREF の示す授業の進め方に則り、教材づくりや授業づくりを研究することができた。（表４）

そこで、１年間の研究内容を集約した「探究型学習事例集」を作成し、知識構成型ジグソー法による授業の進め方、また授業事例、推進員を中心に実践した授業の学習指導案などをまとめた。さらに、本年度、研究した内容を踏まえ、国語科において、「協調学習（知識構成型ジグソー法）」を、年間の授業計画の中で、どのように設定すれば効果的かどうかを例示した「年間指導計画案」も作成した。

(2)　「知識構成型ジグソー法の授業類型」について

表５



本年度の実践事例の中で、「協調学習（知識構成型ジグソー法）」の授業において、「学習課題」と各「エキスパートの問い」との関係を二つの類型で考えることを提案した。（表５）

「ブロック型ジグソー」とは、「学習課題」を解決するために、エキスパートの各問いの答えが必要となり、ジグソー活動で、それらのすべて要素を組み合わせながら、「学習課題」の解につなげていく問いのつくり方である。グローバル教育研究報告会における公開授業では、「現代社会」で扱った「ギリシア問題」の授業がこのパターンに当てはまると考えている。

次に、「コモン型ジグソー」とは、「学習課題」の解決に向けて、いずれかのエキスパートの問いとその答えで、個別的に「学習課題」の解に迫ることができるのであるが、三つのエキスパートの問いを併せて考えることで、多様な角度から「学習課題」を深めていくことができるようなパターンである。グローバル教育研究報告会における公開授業においては、「現代文Ｂ」で扱った「日本人の『顔』」の授業がこのパターンに当てはまると考えている。

しかし、適切な「学習課題」を設定し、また「エキスパートの問い」との関連をどう図るかについては、授業実践も少なく、検証については不十分な点が多い。今後、「教科の本質」の理解を目指し、「思考力・判断力・表現力」の育成を図る「問い」の在り方について研究を深める必要がある。

(3)　「アクティブ・ラーニング」について

「協調学習（知識構成型ジグソー法）」の授業手法について、組織的な研究を進めていく中で、生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成するための主体的・協働的な学習として「アクティブ・ラーニング型」の授業をどのように進めていくかという点が探究型学習推進チーム会などで話し合われた。

生徒主体の学習方法については、さまざまな授業実践の中で広がりを見せているが、一方で、「思考力・判断力・表現力」を伴わない単なる知識の確認をするような事例も見られ、「習得・活用・探究」の学習プロセスの中で「問題設定・解決」を念頭に置く「深い学び」につなげていく視点を持ち、指導方法を改善していく必要がある。